ＮＳ－１　Ｖｅｒ．３

ＮＳ回路/フォノアンプ内蔵
プリアンプ

取扱説明書

～ 目　次 ～

安全にご使用いただくために……3
各部の名称……4
　前面パネル……4
　背面パネル……5
オーディオ・システムに接続するには……6
　電源コード……6
　入力コード……6
　出力コード……6
リモコンの使い方……7
　リモコンの標準設定について……7
　アンプ本体にリモコン信号を学習させるには？……7
　リモコンが正常に機能しないときは？……9
ＮＳレベルを調整するには……10
　ＮＳを活用するコツ……11

アンプの仕様一覧

- 周波数特性： 5Hz（－1dB）～ 50KHz（－3dB）
- 歪率： ライン入力 0.005％、フォノ入力 0.01％（1KHz、1V）
- 利得： ライン入力 3.5dB、フォノ入力（MM）42dB、フォノ入力（MC）60dB
- 残留雑音： 0.05mV
- S/N比： ライン入力/フォノ入力（MM）88dB、フォノ入力（MC）72dB
- フォノ入力のRIAA偏差： 20Hz～20KHz（－0.3dB）
- サイズ：幅26cm、奥行き22cm、高さ7.7cm（突起部含む）
- 重量： 2.1Kg
- 消費電力： AC100V 5W

2008/11/7

安全にご使用いただくために

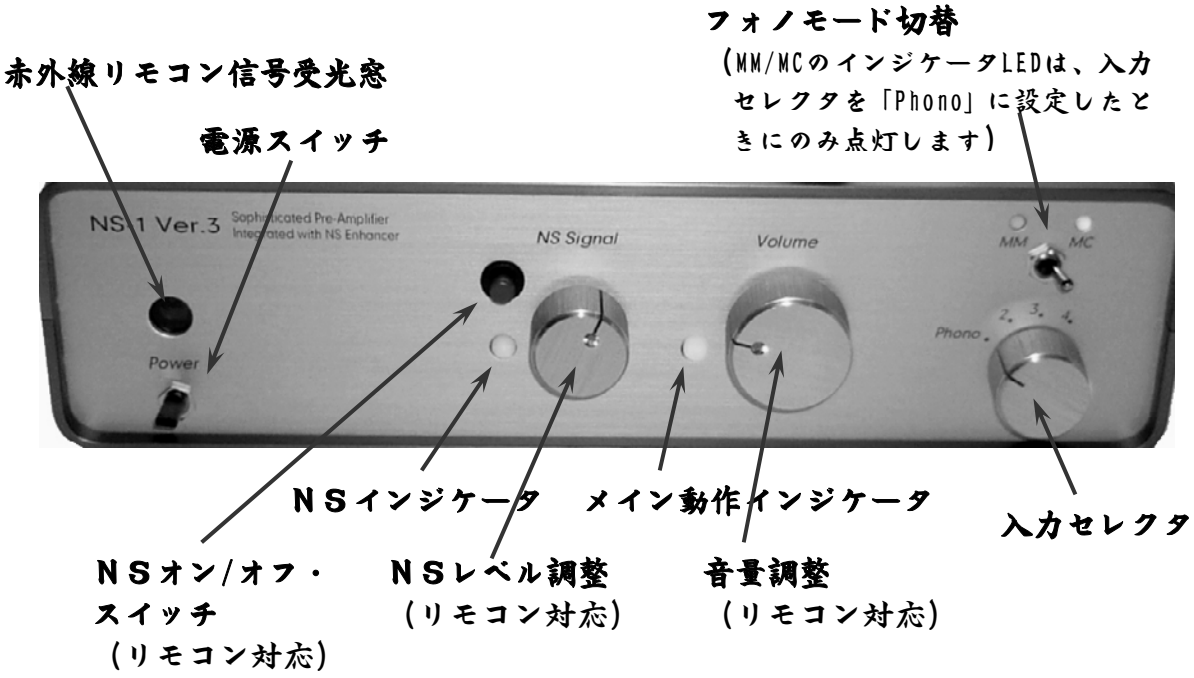
- 感電の危険がありますので、電源コードをコンセントに差し込んだままケース内部に触れないでください。
- アンプの性能を長期間にわたって維持し、故障や事故を防ぐために、極端に温度の高い場所、極端に温度の低い場所、あるいは湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水やお茶などの液体をこぼしてアンプ本体が濡れた場合は、すぐに電源スイッチをオフにし、アンプの使用を中止してください。その後、アンプの点検・修理をＮＳ工房に依頼してください。
- リモコン操作のとき、ボリューム最小の位置で「音量DOWN」ボタンを押し続けたり、ボリューム最大の位置で「音量UP」ボタンを押し続けたりすると、電動ボリュームのモーターやモーター駆動機構に無理が掛かり、故障する恐れがありますので、ご注意ください。

電源スイッチをオフにした後、すぐに再び電源をオンにすると、装置に内蔵しているリモコン制御用のマイコンが誤作動することがあります。

電源を切った直後に再び電源を入れることは避けてください。電源オフのあと、電源オンにするまで、１０秒ほど間をあければ問題ありません。

各部の名称

前面パネル



メイン動作インジケータの色：

青色 ― 電源オン、リモコン通常モード
赤色 ― リモコン信号学習モード
緑色 ― リモコン信号学習モード、学習完了時
ピンク色 ― リモコン操作時（音量UP)
水色～青緑色 ― リモコン操作時（音量DOWN)

ＮＳ（ナチュラル・サウンド）インジケータの色：

緑色 ― ＮＳ信号オン
消灯 ― ＮＳ信号オフ
橙色 ― リモコン操作時（ＮＳレベルUP)
水色～青緑色 ― リモコン操作時（ＮＳレベルDOWN)

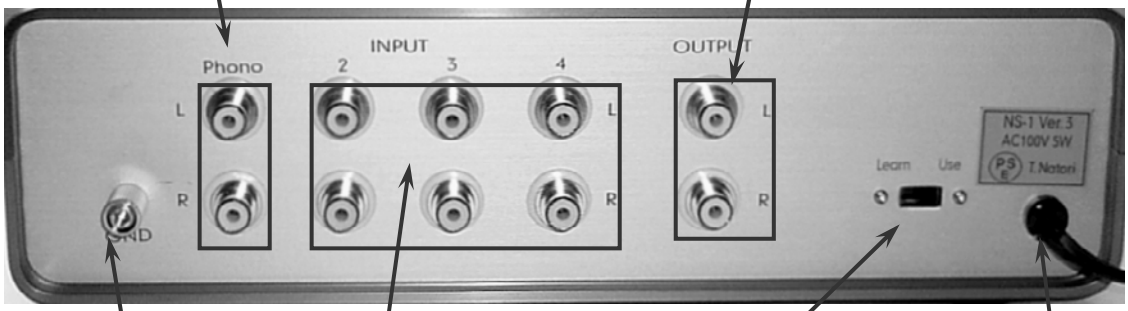
フォノモード切替スイッチ：

背面パネルのフォノ入力端子に接続するフォノカートリッジの種類に応じて「MM」か「MC」を選択してください。インジケータLEDが点灯するのは、入力セレクタで「Phono」入力を選択しているときだけです。

背面パネル

レコードプレーヤーを接続するフォノ入力端子
（フォノアンプなしの製品では「ライン入力１」）

プリアンプ出力



ラインレベル入力
（３系統）

リモコン・モード・スイッチ

電源コード
ＡＣ１００Ｖ用です。

アース端子
レコードプレーヤーや、外付けフォノアンプなどのアースを接続するときにご利用ください。

リモコン・モード・スイッチ：

Use:　通常の使用時はこの位置に設定します。

Learn: リモコン信号を本機に学習させる時にこの位置に設定します。
学習させる方法については７ページをご覧ください。

オーディオ・システムに接続するには

電源コード

電源プラグを家庭用の電源コンセントに差し込みます。

プラグの「コールド側」に白色のペイントでマークが付いています。プラグのこちら側を、電源コンセントのコールド（－）側に差し込むと、特にフォノ入力を使用する際のノイズが減少するなど、本機の音質が向上します。

このアンプは日本のＡＣ１００Ｖ電源専用です。ただし、内部で安定化電源ＩＣを使用しているため、最大１２０Ｖ程度までのＡＣ電源であれば利用可能です。**それより高い電圧の電源に接続すると、アンプ内部のパーツを破損する恐れがありますので、ご注意ください**。

入力コード

「フォノ入力端子」には、レコードプレーヤーの出力を接続できます。
使用しているフォノカートリッジの種類に応じて、前面パネルのスイッチでＭＭかＭＣを選択してください。ＭＭ/ＭＣとも入力インピーダンスは４７ＫΩですが、ＭＣモードでも入力部分はオペアンプＩＣである（昇圧トランスを使用していない）ため、低インピーダンスのＭＣカートリッジを接続してもインピーダンスの不整合などの問題はありません。

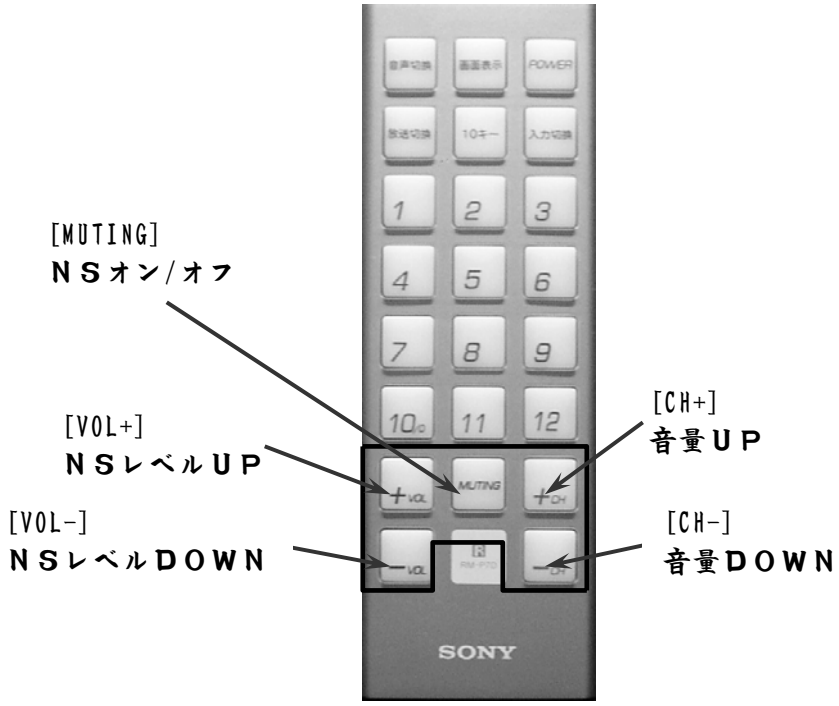
「ライン入力端子」には、ＣＤ/ＤＶＤプレーヤー、チューナー、ＭＤプレーヤーなど、ラインレベルの信号を出力するオーディオ装置を接続できます。

出力コード

本機の出力は、パワーアンプに接続してご利用ください。

リモコンの使い方

本機に付属のリモコン（SONY製のテレビ用万能リモコン）では、下図のボタンを利用して本機の５つの機能を操作できます。



リモコンで「ＮＳレベルＵＰ」と「ＮＳレベルＤＯＷＮ」を操作できるのは、本機が「ＮＳオン」モードになっている（ＮＳインジケータが緑色に点灯している）ときだけです。

リモコンの標準設定について

出荷時には、リモコン本体のメーカー・コードを「日立　１２０」に設定してあり、そのときのリモコン信号をプリアンプに学習させてあります。

アンプ本体にリモコン信号を学習させるには?

このプリアンプには、本機に付属のリモコンのほか、市販のテレビ用リモコンの信号を学習させることができます。ただし、メーカーや機種は一部のものしか利用できません。

本機に付属のSONY製テレビ用万能リモコンで使用できるメーカー設定は次のとおりです：

富士通	141
日立	120, 122, 522,
NEC	119
サンヨー	129, 130, 131, 132, 526
東芝	119
ビクター	126, 127

本機に付属のSONY製テレビ用万能リモコンに「メーカー・コード」を設定するには、リモコンの「POWER」ボタンを押しながら、コード番号の３桁の数字を押してください（コード番号の中の「0」は「10」ボタン)。「POWER」ボタンから指を離すと、「ピー」という確認音が鳴って、設定完了です。

本機の付属のSONY製リモコンや、その他のテレビ用リモコンの信号をプリアンプ本体に学習させるには、次のように操作してください：

１．本機の電源を切り、１０秒ほど待ちます。

２．本機背面のリモコン動作モード切り替えスイッチを「Learn」側に切り換えて、本機の電源をオンにします。

このとき、本機前面のメイン動作インジケータが赤色に点灯するはずです。これにより本機のリモコン機能が「学習モード」になっていることを識別できます。

３．リモコン送信機を本機のリモコン信号受光窓に近づけ、「音量ＵＰ」を割り当てたいリモコン・ボタンを押し続けます。しばらくすると、インジケータがいったん緑色に変化したのち、また赤色に戻ります。

これで「音量ＵＰ」ボタンの学習が完了です。

もし赤色に一瞬変化した後すぐに緑色に戻ってしまう場合は、その信号は正しく学習されていません。再度試しても同じ状況の場合は、その機種のリモコン信号を本機に学習させることができません。

４．次に、ステップ３と同じ要領で他の４つのリモコン・ボタンをプリアンプ本体に学習させていきます。学習させる順序は、次のとおりです。

① 音量ＵＰ（ステップ３で学習が完了しています)
② 音量ＤＯＷＮ
③ ＮＳ信号レベルＵＰ
④ ＮＳ信号レベルＤＯＷＮ
⑤ ＮＳ信号オン/オフ切り替え

５．本機のリモコン信号解析用マイコンには最大８ボタンまでリモコン信号を学習させことができますが、本機では最初の５つのボタンだけを使用します。

６つめ以降のボタンにリモコン信号を学習させても特に支障はありませんが、なるべく避けるようにしてください。

６．本機の電源を切り、背面のモード切り替えスイッチを「Use」側に戻します。

７．本機の電源を切ったあと１０秒ほど待ってから、本機の電源をオンにします。

メイン動作インジケータが青色に点灯し、通常動作モードであることが分かります。これで、新しく学習させたリモコン信号で本機を操作できるはずです。５つのリモコン・ボタンがすべて正常に機能することを確認してください。

なお、リモコン信号を学習させる操作時にインジケータの色の変化では学習操作が正しく完了したように見えても、実際にリモコン操作してみると特定のボタンが機能しないという場合があります。その場合には、別のメーカーや機種のリモコン信号を試してください。

８．もし途中で操作を間違えた場合は、そのまま本機の電源を切って１０秒ほど待ち、再度電源を入れ、ステップ３からやり直してください。

リモコンが正常に機能しないときは?

「特定のつまみが回転し続けて止まらない」、「リモコンで操作できない」という場合には、いったんプリアンプの電源を切り、１０秒ほど待ってから再びプリアンプの電源を入れてみてください。これで正常に動作するようになることがあります。

「リモコンで操作できない」場合には、リモコンの電池が消耗していることも考えられます。ご確認のうえ、必要なら交換してみてください。

それでも問題が解決しない場合は、７ページの「アンプ本体にリモコン信号を学習させるには？」の説明に従ってリモコン信号をプリアンプ本体に再学習させてみてください。

それでも問題が解決しない場合は、ＮＳ工房までご連絡ください。

ＮＳレベルを調整するには

ＮＳ（ナチュラル・サウンド）レベルを調整するときは、多人数で演奏している音楽など、ステレオ感を聞き分けやすい音楽を鳴らしながら、次のように操作します：

１．ＮＳレベル調整つまみを左方向に完全に絞った位置に設定します。

２．「ＮＳオン」になっている（ＮＳインジケータが緑色に点灯している）ことを確認します。もし「ＮＳオフ」ならば、「ＮＳオン」に切り換えてください。

３．リスニング・ポジションからリモコン操作でＮＳレベルを少しずつ上げていき、ステレオ感が増強され始めるポイントを探します。

このとき、ＮＳ信号スイッチをオン/オフしながら効果を確かめることができます。オン時とオフ時で少しの音量差が出ることがありますが、ＮＳレベル調整つまみが「１１時～２時」程度の位置では音量差がほとんどありません。

４．そのままＮＳレベルを上げていくと、ＮＳ回路による音場補正効果が微妙に変化します。自分にとって音楽のステレオ感がいちばん自然に聴こえる位置を探してください。ＮＳレベルを上げすぎると、前後方向の奥行き感が失われる傾向があります。

この調整は、最初は特に厳密に行なうというよりは、かなり大雑把な調整で構いません。おそらく「１０時～２時」程度の位置で最適なポイントが見つかります。

最適なＮＳレベルは、スピーカーの設置状況やリスニング環境、音楽ソースの録音状態、音楽のジャンルや演奏形態などによって異なります。

いったん調整した後も音楽を鑑賞しながら適宜調整していくと、自分の好みや音楽の種類に合ったＮＳレベルが見つかるはずです。

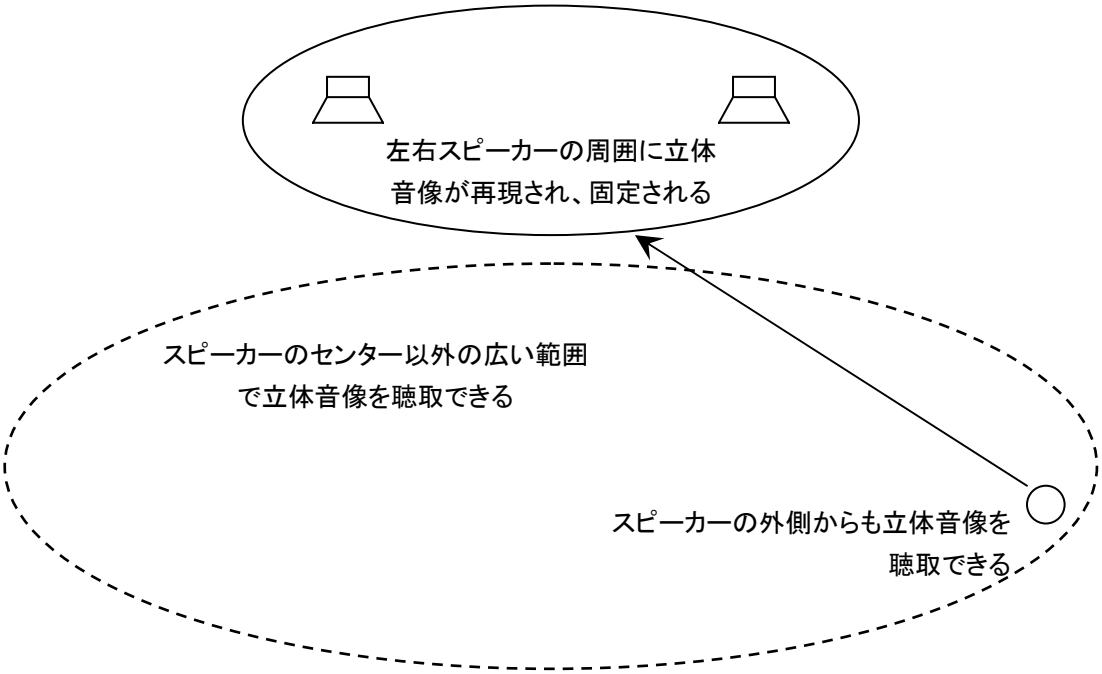
※ＮＳレベルを上げすぎるとオーディオ・システムの状況によっては大音量で発振音が出ることがあります。ご注意ください。

なお、音楽のジャンルや録音/ミキシングの状態によっては、「ＮＳオフ」にしたほうがよい場合があります。たとえば、特殊な音響効果を加えてあるポピュラー音楽や電子楽器の演奏などです。

NSを活用するコツ

ＮＳの効果を充分に発揮させるには、スピーカーの間隔を少し狭くし、内振りを「なし」にするか、内側に傾ける角度を少なくするのがコツです。

ＮＳの効果が出ているかどうかを確認するには、音楽を聴きながら、頭をゆっくり左右に回してみてください。頭を回したときに各楽器の音の聞こえてくる方向が変化するようであれば、ＮＳの効果が出ていません。ＮＳの効果が発揮されていると、頭を回しても聴こえてくる音場が変化せず、一定です。また、下図のとおり、スピーカーの前後左右に移動しても、明瞭なステレオ感を聴き取ることができます。



ＮＳオンで音楽を聴いたときに違和感を覚えたり、楽器の定位がいつもと違うように感じたり、ステレオ音像がゆがんでいるように感じたりすることがあります。普段から「従来型のステレオ装置」で音楽を長時間にわたってお聴きになり、従来のオーディオ装置とスピーカーから出る音を頭の中で「ステレオ音像に再構築する作業」をほとんど無意識のうちに行なえるようになっているオーディオ愛好家の方々ほど、そのような経験をする可能性が高いと考えられます。

そのような場合には、ステレオ感を明瞭に聞き取れる、聴き慣れた音楽を、ある程度の時間 ＮＳオンの状態で聴き続けて「耳と頭脳をＮＳに慣らす」ようにしてみてください。そうすれば、次第に違和感が解消されるはずです。

また、一般的に、次のような調整方法があることを念頭に置いてください。

- 独奏楽器やヴォーカルなどが「奥へ引っ込んでしまう」「他の楽器やオーケストラと一体化して聴こえる」という状態になった場合には、ＮＳ信号レベルを少し絞ると、独奏楽器やヴォーカルが前に迫り出して、自然な感じで音楽を聴けるようになります。
- 音楽を聴く音量が小さいときはＮＳレベルを少し絞り、音量が大きいときはＮＳレベルを少し上げるとよいかもしれません。
- ＮＳレベルが適正レベルより大きすぎると、音の聴こえ方に違和感が出ることがあります。その場合は、ＮＳレベルを下げてください。
- 音楽の種類や録音の状況によっては「ＮＳオフ」で聴いたほうがよい場合もあります。ＮＳの効果が好ましく感じられる音楽を聴くときには「ＮＳオン」、違和感があるときは「ＮＳオフ」、と使い分けるのがコツです。

製品の保証と修理について

保証期間は、製品をＮＳ工房から出荷した日を起点として１年間とします。

出荷日：　　年　月　日

製品の動作に不具合がある場合は、不具合の内容をメール、ＦＡＸ、電話などでＮＳ工房までご連絡ください。

もし製品の故障と判断される場合には、製品をＮＳ工房まで宅配便などで返送していただき、ＮＳ工房で点検・修理を行ないます。恐れ入りますが、返送時の送料はお客様のご負担とさせていただきます。

保証期間内の故障で、故障の原因がお客様の責任でない場合には、無料で修理いたします。

保証期間外の故障の場合には、点検・修理に関する手数料と交換パーツ代をお客様にご負担いただきます。

製造元・連絡先：
〒２４７-００７３
神奈川県 鎌倉市 植木 ６６-１ コープ鎌倉 ５１３
ＴＥＬ/ＦＡＸ：　０４６７-４４-７７１２
Email: ns_kobo@nifty.com
URL: http://homepage2.nifty.com/tnatori/NS/
ＮＳ工房　名取 俊忠